

旭川工業高等専門学校		開講年度	令和05年度 (2023年度)		授業科目	国語Ⅱ	
科目基礎情報							
科目番号	002		科目区分	一般 / 必修			
授業形態	講義		単位の種別と単位数	履修単位: 2			
開設学科	電気情報工学科 (2021年度以降入学者)		対象学年	2			
開設期	通年		週時間数	2			
教科書/教材	「論理国語」「文学国語」(大修館)、学習課題ノート(大修館)、「カラー版新国語便覧」(第一学習社)、「標準漢字演習」(とうほう)、国語辞典・古語辞典・漢和辞典 * 古文・漢文は別途教材を配布						
担当教員	倉持 しのぶ						
到達目標							
1. 論理的な文章を客観的に理解することができる。 2. 文学的な文章を多角的に鑑賞することができる。 3. 日本文化への理解を深めることができる。 4. 現代日本語の知識を適切に活用して表現できる。 5. 論理的かつ効果的に双方向的コミュニケーションをとることができる。							
ルーブリック							
	理想的な到達レベルの目安(優)		標準的な到達レベルの目安(良)		未到達レベルの目安(不可)		
評価項目1	論理的な文章を客観的に理解することができる。		論理的な文章を理解することができる。		論理的な文章を理解することができない。		
評価項目2	文学的な文章を多角的に鑑賞することができる。		文学的な文章を鑑賞することができる。		文学的な文章を鑑賞することができない。		
評価項目3	日本文化への理解を十分に深めることができる。		日本文化への理解を深めることができる。		日本文化への理解を深めることができない。		
評価項目4	現代日本語の知識を適切に活用して表現することができる。		現代日本語の知識を活用して表現することができる。		現代日本語の知識を活用して表現することができない。		
評価項目5	論理的かつ効果的に双方向的コミュニケーションをとることができる。		双方向的コミュニケーションをとることができる。		双方向的コミュニケーションをとることができない。		
学科の到達目標項目との関係							
電気情報工学科の教育目標④ 本科の教育目標③							
教育方法等							
概要	現代文・古文・漢文をバランスよく学習し、知識・読解力・鑑賞力を身につけるとともに、論理的思考力を伸ばすことができるよう、シラバスに沿って授業を進める。漢字検定試験準2級以上(4年生までに2級)合格をめざす。						
授業の進め方・方法	予習を前提として授業を進める。現代文は本文を熟読し、漢字の読み方や語句の意味を調べておくこと。古文・漢文は授業で説明する方法を参考にして授業の前にノート等を作成しておき、授業中は必要事項を書き込むようにする。夏・冬の長期休暇には別途課題を課す。						
注意点	授業内容をきちんと理解するために、毎回必ず予習をして授業に臨むこと。 ① 学習に有用な、しっかりしたノート等を作成し、理解力・表現力の伸長に心がける。 ② 辞書を引き予習復習を行って、漢字力・語彙力を養成し、日常的な学習習慣を身につける。 ③ 新聞を含め広く文章に親しみ、実際に読み書きすることを心がける。具体例としてコラム写書を行うことを推奨する。						
授業の属性・履修上の区分							
☐ アクティブラーニング		☐ ICT 利用		☐ 遠隔授業対応		☐ 実務経験のある教員による授業	
授業計画							
		週	授業内容		週ごとの到達目標		
前期	1stQ	1週	ガイダンス ノートの作り方		・学習の取り組み方や意義・評価法等がわかる。 ・古文・漢文のノートの作り方がわかる。		
		2週	【現代文】 ・世界を広げる「批評」の言葉〈論国〉		・文章の前提・含意を理解することができる。		
		3週	・世界を広げる「批評」の言葉〈論国〉		・文章の前提・含意を理解することができる。		
		4週	・十八歳の選択〈文国〉		・内容、構成、展開、描写などを捉えることができる。		
		5週	・十八歳の選択〈文国〉		・内容、構成、展開、描写などを捉えることができる。		
		6週	【古文】 ・大江山		・言語文化での学習を踏まえた確に内容を読み取ることができる。		
		7週	【漢文】 ・漁父辞 次週、中間試験を実施する。		・訓点法を習得し、正確な書き下し文を書くことができる。		
		8週	前期中間試験・答案返却指導 【現代文】 ・山月記〈文国〉		・文体の特徴や効果を考えたり、解釈を深めたりすることができる。 ・解釈を共有し、その多様性について考えることができる。		
	2ndQ	9週	【現代文】 ・山月記〈文国〉		・文体の特徴や効果を考えたり、解釈を深めたりすることができる。 ・解釈を共有し、その多様性について考えることができる。		

後期		10週	・山月記〈文国〉	・文体の特徴や効果を考えたり、解釈を深めたりすることができる。 ・解釈を共有し、その多様性について考えることができる。
		11週	・山月記〈文国〉	・文体の特徴や効果を考えたり、解釈を深めたりすることができる。 ・解釈を共有し、その多・文体の特徴や効果を考えたり、解釈を深めたりすることができる。 ・解釈を共有し、その多様性について考えることができる。
		12週	【古文】 ・ゆく河の流れ	・日本古典の代表的随筆を読み、筆者の考え方を理解することができる。
		13週	・ゆく河の流れ 【漢文】 ・四面楚歌	・日本古典の代表的随筆を読み、筆者の考え方を理解することができる。 ・訓読の習得につとめ、歴史物語を通じて、人間の生き方について考えを深めることができる。
		14週	【漢文】 ・四面楚歌	・訓読の習得につとめ、歴史物語を通じて、人間の生き方について考えを深めることができる。
		15週	前期末試験	
		16週	答案返却指導	
	3rdQ	1週	【現代文】 ヴィーナス〈論国〉	・ミロの ・評論文を読み、論理の展開を理解することができる。
		2週	・ミロのヴィーナス〈論国〉	・評論文を読み、論理の展開を理解することができる。
		3週	・デジタル地図から見える世界〈論国〉	・構成を確かめながら、筆者の主張を読み取ることができる。
		4週	・デジタル地図から見える世界〈論国〉	・構成を確かめながら、筆者の主張を読み取ることができる。
		5週	【古文】 ・中納言参り給ひて〈枕草子〉	・敬語を理解することができる。
		6週	・中納言参り給ひて〈枕草子〉 【漢文】 ・不忍人之心〈孟子〉	・敬語を理解することができる。 ・儒家の思想を理解するとともに、人間の生き方やあり方について考えることができる。
		7週	・不忍人之心〈孟子〉 次週、中間試験を実施する。	・儒家の思想を理解するとともに、人間の生き方やあり方について考えることができる。
		8週	前期中間試験・答案返却指導 【現代文】 ・私の日本住居論〈文国〉	・自分のものの見方、感じ方、考え方を深めることができる。
		9週	・私の日本住居論〈文国〉	・自分のものの見方、感じ方、考え方を深めることができる。
		10週	・心に「海」を持って〈論国〉	・現在の国際社会の状況について理解し、問題点について考えることができる。
		11週	・心に「海」を持って〈論国〉	・現在の国際社会の状況について理解し、問題点について考えることができる。
		12週	【古文】 ・光源氏の誕生	・敬語法に注目し、主語を補いながら解釈することができる。 ・日本古典の代表作を味わい、正確に理解することができる。
		13週	【古文】 ・光源氏の誕生	・敬語法に注目し、主語を補いながら解釈することができる。 ・日本古典の代表作を味わい、正確に理解することができる。
		14週	【漢文】 ・大道廃、有仁義 ・混沌	・道家の思想を理解するとともに、人間の生き方やあり方についての考えを深めることができる。
		15週	学年末試験	
		16週	答案返却指導	

モデルコアカリキュラムの学習内容と到達目標						
分類		分野	学習内容	学習内容の到達目標	到達レベル	授業週
基礎的能力	人文・社会科学	国語	国語	論理的な文章(論説や評論)の構成や展開を的確にとらえ、要約できる。	2	前2,前3,後1,後2,後3,後4,後8,後9,後10,後11
				論理的な文章(論説や評論)に表された考えに対して、その論拠の妥当性の判断を踏まえて自分の意見を述べることができる。	2	前2,前3,前8,前9,後1,後2,後3,後4,後8,後9,後10,後11
				文学的な文章(小説や随筆)に描かれた人物やものの見方を表現に即して読み取り、自分の意見を述べることができる。	2	前4,前5,前8,前9,前10,前11,前12,前13,前14,後5,後6,後7

				常用漢字の音訓を正しく使える。主な常用漢字が書ける。	2	前1,前2,前3,前4,前5,前6,前7,前8,前9,前10,前11,前12,前13,前14,後1,後2,後3,後4,後5,後6,後7,後8,後9,後10,後11,後12,後13,後14
				類義語・対義語を思考や表現に活用できる。	2	前2,前3,前4,前5,前6,前7,前8,前9,前10,前11,前12,前13,前14,後1,後2,後3,後4,後5,後6,後7,後8,後9,後10,後11,後12,後13,後14
				社会生活で使われている故事成語・慣用句の意味や内容を説明できる。	2	前2,前3,前4,前5,前6,前7,前8,前9,前10,前11,前12,前13,前14,後1,後2,後3,後4,後5,後6,後7,後8,後9,後10,後11,後12,後13,後14
				専門の分野に関する用語を思考や表現に活用できる。	2	
				実用的な文章(手紙・メール)を、相手や目的に応じた体裁や語句を用いて作成できる。	2	
				報告・論文の目的に応じて、印刷物、インターネットから適切な情報を収集できる。	2	
				収集した情報を分析し、目的に応じて整理できる。	2	
				報告・論文を、整理した情報を基にして、主張が効果的に伝わるように論理の構成や展開を工夫し、作成することができる。	2	
				作成した報告・論文の内容および自分の思いや考えを、的確に口頭発表することができる。	2	
				課題に応じ、根拠に基づいて議論できる。	2	
				相手の立場や考えを尊重しつつ、議論を通して集団としての思いや考えをまとめることができる。	2	
				新たな発想や他者の視点の理解に努め、自分の思いや考えを整理するための手法を実践できる。	2	

評価割合

	試験	レポート	合計
総合評価割合	80	20	100
基礎的能力	60	10	70
専門的能力	0	0	0
分野横断的能力	20	10	30